傳家四合源氏

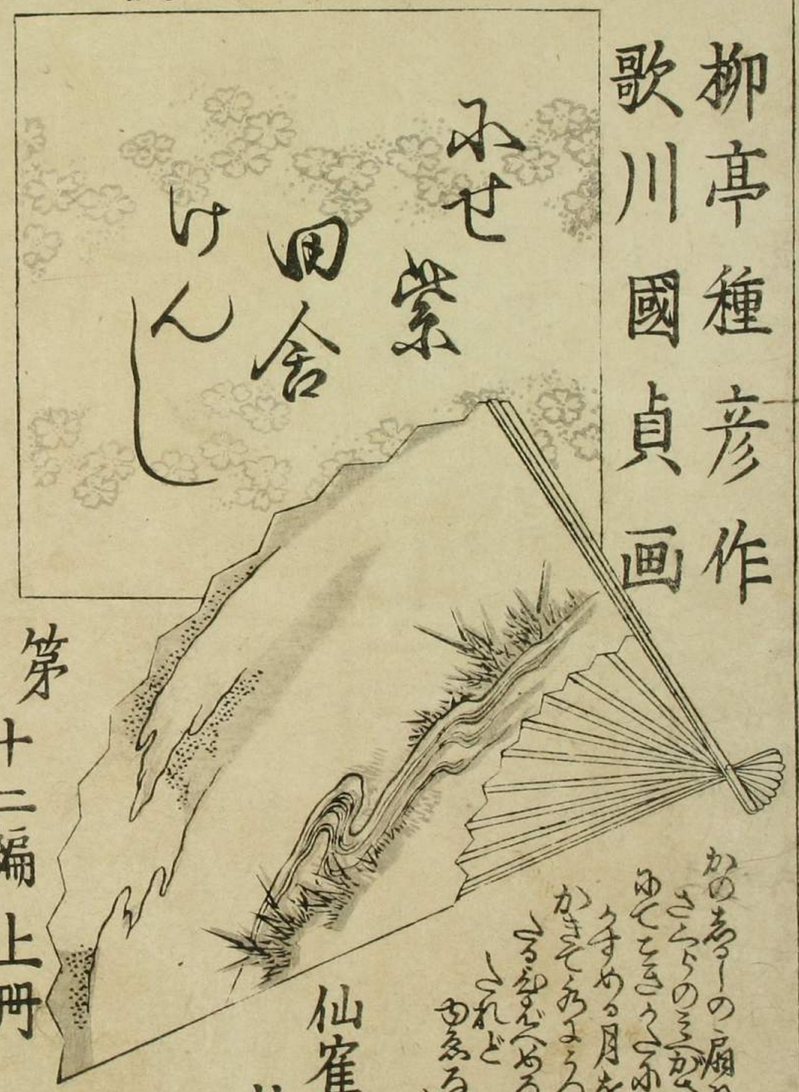
十二

特別
へ13
4274
12

A13
4274
12
91-2343

天保甲午春發販

柳亭種彦作
歌川國貞画



第十二編上冊

仙崔堂
梓

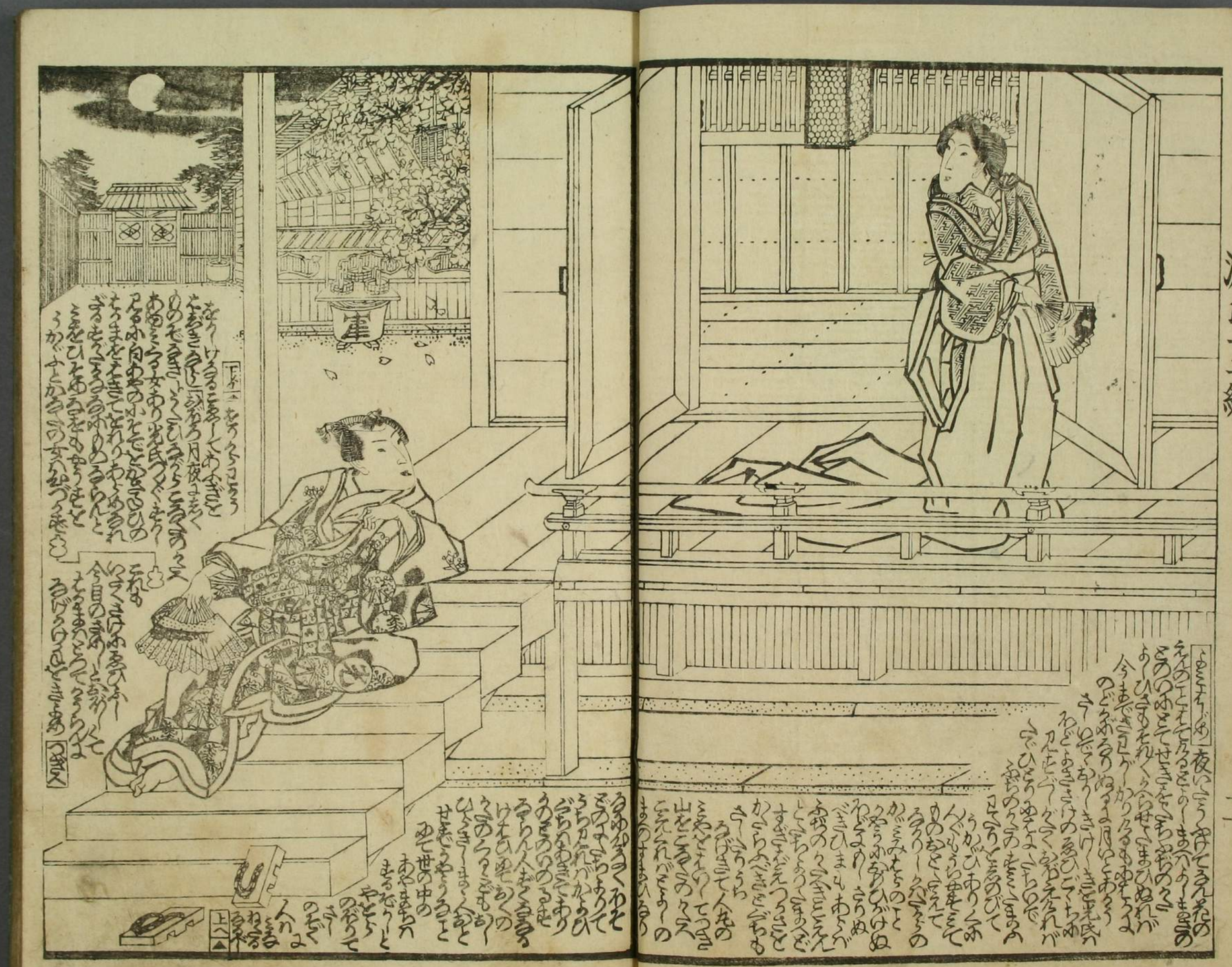
修紫田舍源氏十二編序

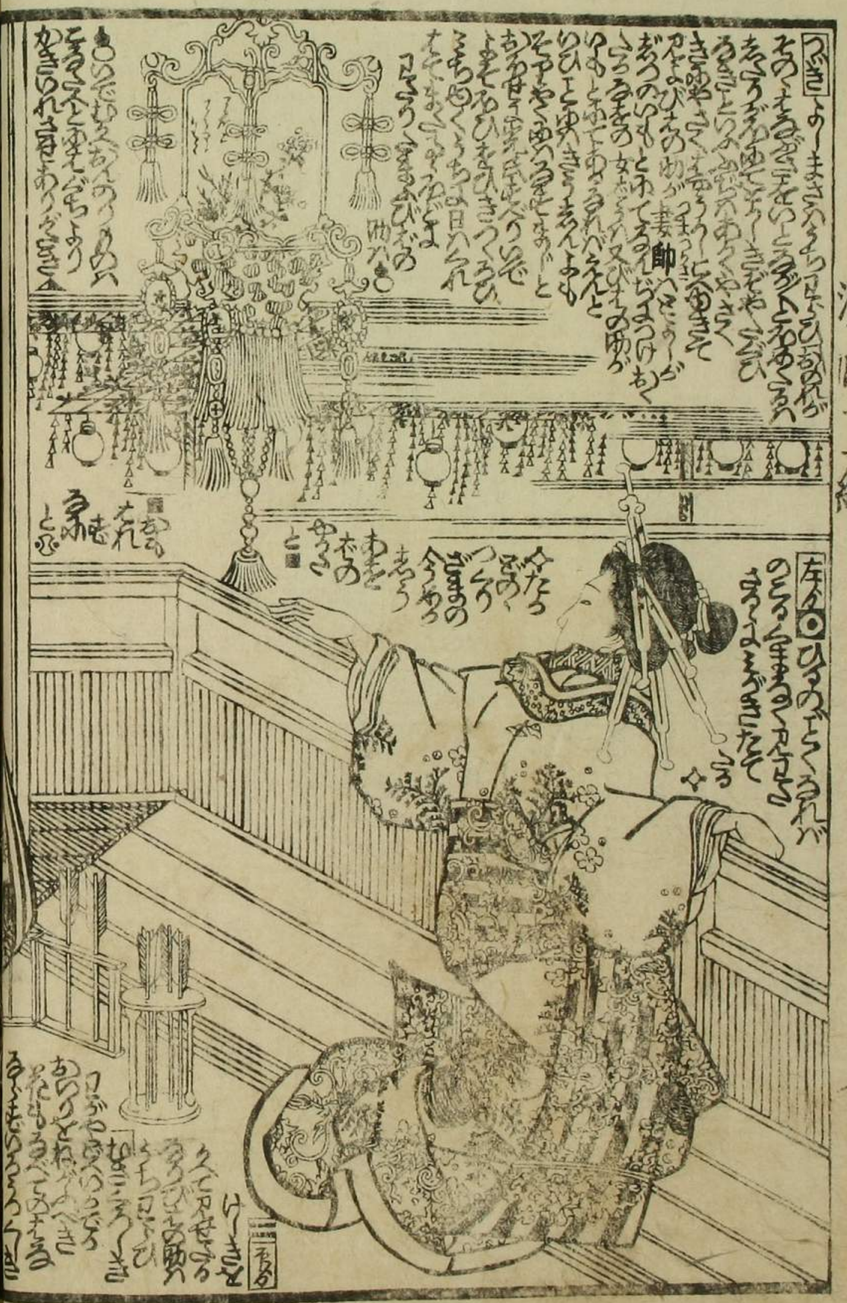
實ふいろさはふ作り替ても源氏まろびの繪草紙は葵と傷る
曼珠沙華ぬて其巻まそいわまびもるゝ夕顔ふ至ひるばそれると寄て視る
人分く若紫の色あせてなつゝかゝ忠未摘花紅葉の賀ふ狂言の
事ふ恋ふ盡んと推量り曉ふ前ふ引あげゝ車争ひの段ふいろ
ゝありゝるゞ最悔ゝゝ何ふ書つらんと思ふふゝ思ふゝされば彼車の牛と
馬ふ道ふるふぬ三筋町の置の賀茂義ふ素かゝても筆ふ走らぎ
硬くかとるゝきんゝかくるせそと教れぎも毛ふ是ふ世ふ傳ふる
形ふゆもわらぎとて校合のるもふれさぎ但代のまゝ別顔ふ物も
見で繻りゝるれば表紙るども押折れもぎろる箱のわくふゝ
やられて紙魚の虫物ふるらんかと中く心ぜくゝあり

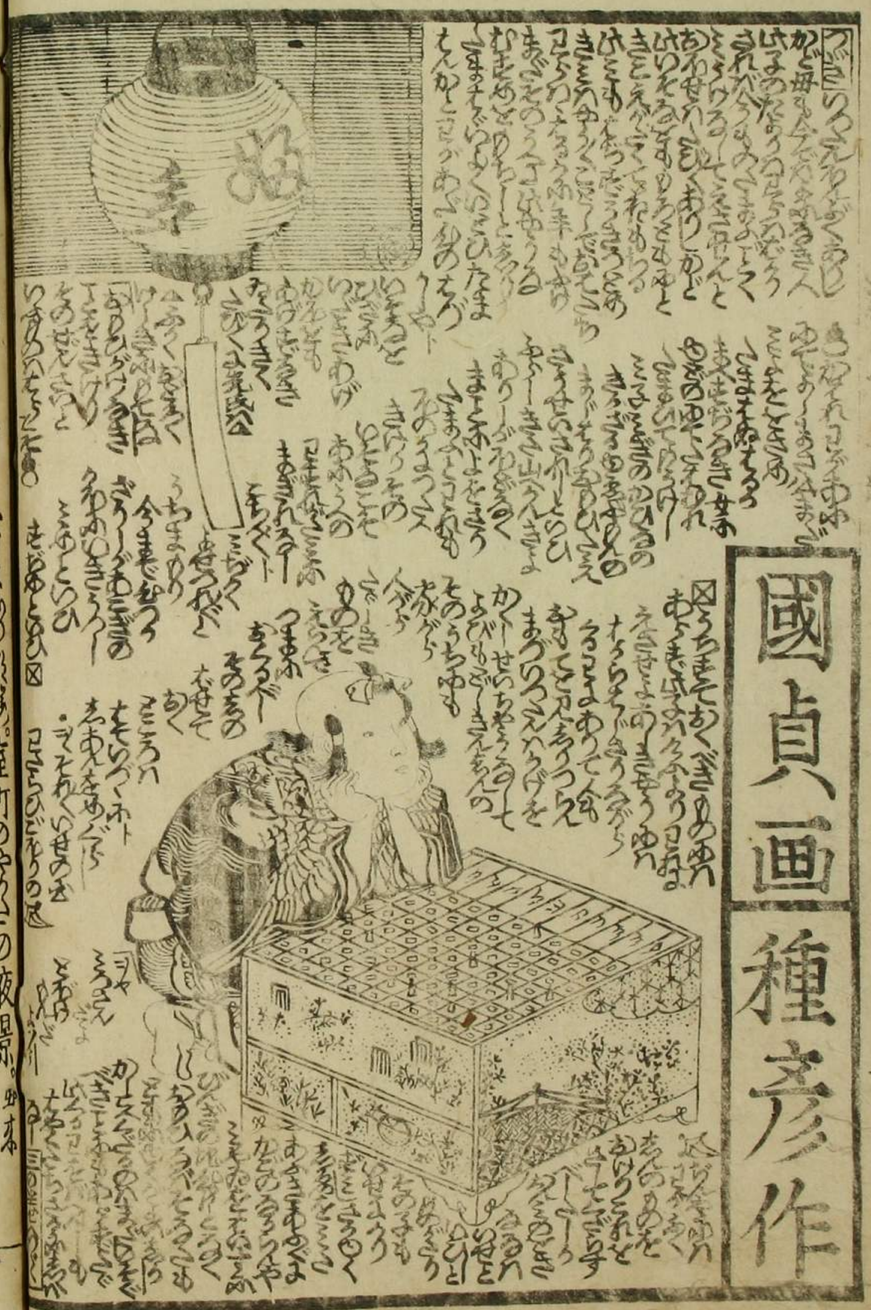
天保五年甲午正月

柳亭種彦記

琵琶之助の娘
桂樹一休禪師の
弟子となる
りゝ宿の花〜
あべてのゝをなるらば
なのふかそさゝゑ
まゝと
まさはゝ〜
あこぎ
阿古木の
禿磯菜
蔡の宴ハ大内為満が館るべきと
例の揚屋よりるゝ〜ハ
繪ゆうとかゝん
ゝその業るり







田舍源氏錦繪　中奉書八ッ切り

ふぜいあるこころ所を追こ出板仕ゆ　歌川國貞画

前北齊為一翁画　江の島大山往来雙六　柳亭撰

先年より喜愛ひろめ多く摺り出ゆる氏名を板を彫あら家別て紙摺り等精密よ相製ゆ

同翁画東海道五十三次錦繪

是又佳紙を選ミ極彩色袋入ニ製ス　おきゆる所年玉等

めいきれいゆてよろ〜所ゆ程奉帝ゆ

考訂大和詞　柳亭校　弄花翁撰

歌舞妓年代記初編拾遺　柳亭種彦編

故馬馬翁の書ゆらきれる事どもをあつめ古圖古画をおくくろ〜

れ考証を引考へを附〜ろ　近刻

江戸通油町地本書林　仙鶴堂　小林喜右衛門印行

種彦作

岩屋栃

四

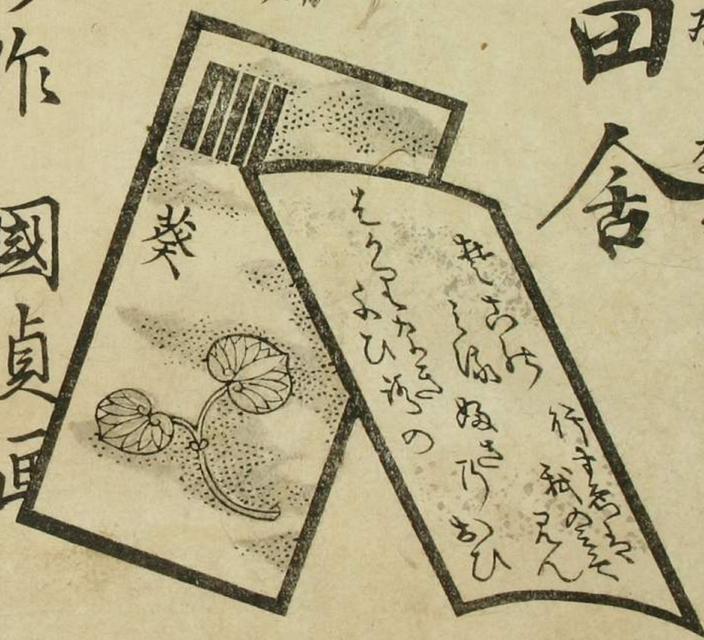
貞一画

十二編下

偐紫田舎源氏

第十二編
下冊

種彦作　國貞画



通油町書房　鶴屋開板

つゞき

今宵はよき月夜

右へ

左下へ

右へ

左へ

つゞき

源氏十三編
十四
五月
五日
あやめひき
ぎょく
あかが
五月
五日
つぼの
あやめ
光氏が
やどれの
うくひすまつ
ろうのうちさ
ひめ
源氏十二編
十五

天保午春新版書林地本問屋仙崔堂

傾城水滸傳第十三編 八冊 歌川国貞画
百人一首童講譯 山東京山作 八冊 歌川国虎画
三國志畫傳第八編 重田貞一作 八冊 歌川国安画
石橋山義兵白旗 全五冊 歌川国芳画
戀山崎妹背相駕 柳亭小三馬作 全六冊 歌川国貞画
偐紫田舍源氏 十編十三編 柳亭種彦作 歌川國貞画

若衆哉梅條振 全六冊 歌川国貞画
油町製本菜種黄表紙 竹迂亭仙果作 全四冊 歌川貞秀画
國字水滸傳十三編 柳亭種彦譯 四冊 歌川国芳画
御手の糸屋善の網五郎 柳亭玉水 仙客亭柏琳作
星下梅花咲 全六冊 歌川貞秀画
浮世說 柳亭種彦作 四冊 歌川国貞画
旗飄兎水葛葉 吉規の種繁作 全六冊 歌川廣重画

仙女香四十八孔美玄香四十八孔坂巻製
三日粉よ成駒香 本家の出る茶 本盛町 中村氏製
鶴聲丹

書物錦繪 江戸通油町
團扇地紙 問屋鶴屋喜右衛門